

第638回

I B C 番組審議会 議事録

— 議 題 —

「いのち。伝えたい 時計屋カフェ～若年性認知症と生きる～」

平成31年3月27日（水）

(株) I B C 岩手放送

第638回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成31年3月27日(水)午前11時

2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール

3. 委員の出席 委員総数 10名

出席委員 6名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 菅原 和彦 宮 順子

佐藤 求 栗田 均

欠席委員の氏名 小松 務 澤口 たまみ

龍澤 尚孝 畠山 俊彰

会社側の出席

鎌田 英樹 代表取締役社長

黒澤 秀之 取締役営業本部長

眞下 卓也 取締役放送本部長

中島 勝志 報道局長

中村 好子 報道部長

佐藤 桃花 ディレクター

宿輪 智浩 テレビ編成部副部長

事務局 若槻 修 番組審議会事務局長

平澤 泰志 番組審議会事務局員

4. 議題 「いのち。伝えたい 時計屋カフェ～若年性認知症と生きる～」

【2月24日(日)午後3時30分～放送】

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 「時計屋カフェ」は誰でも参加できるのか、利用方法、料金、営業日、場所、どんな仕組みで運営が成り立っているのか。また、サポーターの役割は何か、活躍の場はどんなところにあるのか、数は足りているのか、サポートを受けたい人はどこに頼めばいいのかなど、興味のある情報がもっと欲しかった。
- 医大の先生の「もの忘れ以外の症状は本人と周りの人との相互関係でできている。本人の心配をあおるような対応はしてはいけない。」というコメントが非常に興味深かった。「家族だけでみていくという気持ちは捨てて、お互いの距離を保ちながら個々が1人の時間も持ってリラックスできるように過ごしていくことも大事だ。」というコメントも印象深かった。
- 認知症カフェが2倍に増えているというところが興味深かった。「時計屋カフェ」でも若い人がいたが、学生なのかNPOの方々なのか、2倍に増えているということはニーズも皆さんの関心も高まっていることだと思うので、それに関する情報があればいいなと思った。
- 登場人物の男性は60代後半で発症し、若年性アルツハイマーの範疇とは少しずれているようだが、訴える力のある人物だった。「思い描いていたストーリーの老後とは違うがそれは仕方ないこと。自分を受け入れ自分らしく一生懸命生きている」という言葉が胸を打った。
- (発症した男性の)妻が「自分でも認めるのに数か月かかった」と話していたが、心の葛藤をもう少し知りたいと思った。カフェやサポーターの集まりなど一般には意外と知られていない。最初の取り掛かりはどこに行けばいいのか、それも知りたいと思った。
- 冒頭に若干唐突さがあった。町の人々に若年性認知症のイメージについてインタビューしたものを冒頭に置いて、「そういう認識なんだ」、「その認識は本当に正しいのだろうか」、「今は大分違うのではないか」と視聴者が理解し、引き付けられるような工夫ができたのではないだろうか。